

最終評価（表紙）

高梁市 歴史的風致維持向上計画(平成22年11月22日認定)
最終評価(平成22年度～令和2年度)

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的町並みの保存に関する方針	3
II 文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針	4
III 伝統文化の保存・継承に関する方針	5
IV 周辺景観に関する方針	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 観光客数の増加	7
ii 良好な景観とIターン、交流人口の増加による活性化	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 旧吹屋小学校校舎保存修理事業	9
B 高梁市景観重要建造物等保存事業	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 城下町高梁に見る歴史的風致	11
2 銅山とベンガラによる繁栄に見る吹屋の歴史的風致	12
3 備中神楽に見る歴史的風致	13
4 渡り拍子に見る歴史的風致	14
■ 庁内体制シート（様式6）	15
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	16
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	17

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町高梁に見る歴史的風致	I、II、III、IV	
2	銅山とベンガラによる繁栄に見る吹屋の歴史的風致	I、II、III、IV	
3	備中神楽に見る歴史的風致	III	
4	渡り拍子に見る歴史的風致	III	
5			
6			
7			
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的町並みの保存に関する方針		
II	文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針		
III	伝統文化の保存・継承に関する方針		
IV	周辺景観に関する方針		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光客数の増加		
ii	良好な景観とターンの増加による活性化		
iii			
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	旧吹屋小学校校舎保存修理事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	高梁市景観重要建造物等保存事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
方針	I 歴史的町並みの保存に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 人口の減少による空き家や空き地の増加、生活スタイルの変化や建物の老朽化による取り壊しや建て替えて駐車場や現代的な家屋も増加してきており、連続性ある町並みが失われつつある。

【方針】 歴史的な町並みを形成している町家等について、住民意識の醸成を図り、助成事業を活用した保存修理・修景整備を行うことにより町並みの連続性を維持し、歴史・文化的な景観と調和した魅力ある町並みの保全、形成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	町並み保存整備事業	H21末32件→R2末66件の修景補助	あり	H10～
2	町並み保存整備ガイドライン策定		あり	H22
3	重要伝統的建造物群保存地区・保存修理事業	H22末121件→R2末149件の修景補助	あり	S52～
4	古民家再生事業(吹屋)	H22 0件 → R2 1件の再生	なし	H27～29

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

備中松山城下に広がる歴史的な町並みの保存事業として平成10年から取り組んできた「高梁市歴史的町並み保存地区(平成26年には対象地区を一部拡大)整備事業」に継続的に取り組み、歴史的な町家の保存修理・修景整備を行い、町並みの連続性の維持・向上を図った。

高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区では、選定された昭和52年から継続的に取り組んできた町家等の保存修理・修景整備事業を、吹屋町並保存会の協力により順次整備した。

また、吹屋地区では少子高齢化による空き家が増加するなか、町並み存続の危機感から住民グループで協議を重ね、約20年空き家となっていた損傷の激しい明治時代建築の町家を1棟貸しの宿泊施設に整備し、町並みに1つの明かりを灯した。

結果、空き家活用のモデルとなるとともに、併設したカフェのランチの人気と相まって口コミで評判が広がり、少しずつ利用者が増えてきた。



修景整備した門



空き家を再生した宿泊施設「町家ステイ吹屋 千枚」



「町家通りの雛まつり」開催の様子

④ 自己評価

高梁地区、吹屋地区ともに若干の空き地・空き家等は生じたものの事業の展開により町並みの連続性は維持できた。整備された町並みでは雛祭りや古民家を活用したアートイベント等も開催され、住民の意識も醸成されている。特に吹屋地区ではこれまで懸案であった空き家が、1軒ではあるが宿泊施設として再生し、地元で管理・運営しており住民にも活気が表れてきた。

⑤ 今後の対応

人口減少、過疎化により、空き家が増加してきているため、町並みを構成している家屋の維持が困難となってきているので、引き続き、助成事業を活用した保存修理、修景整備を行っていくとともに、今後は、空き家となった家屋に人が住めるような定住対策にも重点を置き取り組んでいく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
方針	Ⅱ文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 修復が必要となっている文化財の多くは個人所有であり、修復・保存に費用がかさむことや所有者の高齢化、空き家化が進み、整備を進めることが困難になっている。また歴史的な遺構についても管理が行き届かず保存状態が良くないところがあり、活用も十分になされていない。

【方針】 指定・登録文化財、その他歴史的価値の高い建造物に関して、調査・研究を継続的に行い、適切な保存と維持管理に取り組む。また、文化財を積極的に公開してその活用を図るとともに、公開講座等において市民の文化財に対する理解・関心を高める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	文化財の保存修理事業	備中松山城跡・登城道を整備、旧吹屋小学校校舎保存修理中	あり	H22～
2	その他歴史的建造物の保存修理事業	旧備中松山藩御茶屋・笹畝坑道を整備	あり	H22～
3	歴史的建造物等の調査・研究事業	郷土資料館建物調査・吉岡銅山遺跡調査中	あり	H23～
4	歴史いろは塾の開催	毎年4～8回開催	あり	H23～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【文化財の保存修理事業】

備中松山城の史跡整備を継続して実施するとともに、来城者の利便性に配慮し、登城道の一部整備を行った。旧吹屋小学校の保存修理事業は平成25年度から継続実施中である。



史跡備中松山城跡記念物保存修理事業(大池 H29)

【歴史的建造物の保存修理】

郷土の偉人である山田方谷が宿した「旧備中松山藩御茶屋」の再現整備工事を行った。また、吹屋の坑道「笹畝坑道」の入り口付近の修理を行い、来場者の安全性確保に努めた。

【歴史的建造物等の調査・研究事業】

郷土資料館として活用している「高梁尋常高等小学校校舎」の調査を行った。吉岡銅山に関する調査(発掘調査・文献調査)も実施している。



旧備中松山藩御茶屋

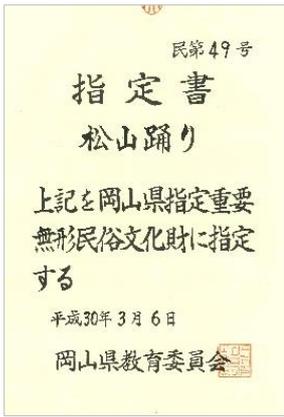
④ 自己評価

文化財を保存修理することにより、後世に文化財を適切に伝えていくとともに、整備事業の実施により、文化財の魅力を可視化することができた。

歴史的建造物の修理や調査・研究により、失われつつある歴史へ光を当てるとともに、文化財としての価値付けを行うことができた。

⑤ 今後の対応

これまでと同様に、継続して史跡備中松山城跡の整備事業を実施するとともに、旧吹屋小学校校舎保存修理を計画的に進め、完成後には公開することにより、高梁市景観計画の重点地区における歴史的な魅力を高めていく。また、歴史的建造物等の調査・研究に関しても継続して実施し、新たな観点からの歴史的な価値付けを行っていく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年																				
方針	Ⅲ伝統文化の保存・継承に関する方針	今後の対応	継続展開																				
<p>① 課題と方針の概要</p> <p>【課題】 地域固有の歴史や伝統を継承する人々の高齢化が進み、次代の担い手も少子化により地域全体の活動団体が減少し、民俗芸能の継承が困難になりつつある。</p> <p>【方針】 「松山踊り」、「備中神楽」、「渡り拍子」等の伝統的な芸能や祭礼について、保存団体が行う保存伝承活動、後継者育成活動への支援を行い、顕彰事業にも取り組んでいく。</p>																							
<p>② 事業・取り組みの進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>項目</th> <th>推移</th> <th>計画への位置付け</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>備中神楽保存伝承活動推進事業</td> <td>保存伝承活動団体数9→11、会員数189→188人</td> <td>あり</td> <td>H22～</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り拍子保存伝承活動推進事業</td> <td>保存伝承活動団体数26→22、会員数429→436人</td> <td>あり</td> <td>H22～</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>松山踊り保存調査事業</td> <td>H30 岡山県重要無形民俗文化財指定</td> <td>あり</td> <td>H25～26</td> </tr> </tbody> </table>					項目	推移	計画への位置付け	年度	1	備中神楽保存伝承活動推進事業	保存伝承活動団体数9→11、会員数189→188人	あり	H22～	2	渡り拍子保存伝承活動推進事業	保存伝承活動団体数26→22、会員数429→436人	あり	H22～	3	松山踊り保存調査事業	H30 岡山県重要無形民俗文化財指定	あり	H25～26
	項目	推移	計画への位置付け	年度																			
1	備中神楽保存伝承活動推進事業	保存伝承活動団体数9→11、会員数189→188人	あり	H22～																			
2	渡り拍子保存伝承活動推進事業	保存伝承活動団体数26→22、会員数429→436人	あり	H22～																			
3	松山踊り保存調査事業	H30 岡山県重要無形民俗文化財指定	あり	H25～26																			
<p>③ 課題解決・方針達成の経緯と成果</p> <p>・高梁市における民俗芸能として、文化財に指定されている「備中神楽」「渡り拍子」について、伝統文化の継承と後継者育成を目的として、保存団体・保存育成団体に対して活動や用具の整備に関する助成を行った。その成果として、保存団体と保存育成団体の団体数をおおよそ維持できている。</p> <p>・岡山県三大踊りに数えられる「松山踊り」について、平成25～26年度に調査委員会を組織し調査を行い、調査報告書を刊行した。その成果をもとに、平成29年に市の重要無形民俗文化財に、平成30年に県の重要無形民俗文化財に指定され、将来にわたり文化財として保存伝承を図ることとなった。</p>																							
<p>④ 自己評価</p> <p>高梁市を代表する伝統文化である「備中神楽」、「渡り拍子」、「松山踊り」について、保存団体等への助成を行いつつ、適切に継承・後継者育成が図られている。</p> <p>また、新たに「松山踊り」が文化財として指定を受けたことにより、文化財としての価値付けが行われ、保存継承に対する住民の意識が高まった。</p>		 <p>松山踊り保存調査報告書 (H27.3月刊行)</p>  <p>指定書 松山踊り 上記を岡山県指定重要無形民俗文化財に指定する 平成30年3月6日 岡山県教育委員会</p> <p>指定書</p>																					
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>「備中神楽」と「渡り拍子」は、これまでと同様に適切な保存・継承が図られる必要があり、助成を継続して実施する。また「松山踊り」については、保存・継承のための助成を行っていなかったが、文化財指定を受けたことにより適切な保存・継承を図るために、必要に応じて、助成を行っていく。</p>																							

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
方針	IV周辺景観に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 歴史的な建造物の連続性のある美しい景観が、マンションの建築など社会情勢の変化などにより阻害されてきている。良好な景観は市民共有の財産であるという意識の醸成や維持向上に向けた取り組みが必要。

【方針】 道路や周辺環境について歴史的な景観に配慮した美装化や無電柱化、景観を阻害する建造物の修景・除去などの整備を図り、歴史的な景観を阻害することがないよう景観計画を策定し、景観形成基準を設定する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	道路美装化事業	武家屋敷通、吹屋線、御殿坂、柿木町線 L=1,084m	あり	H24～
2	無電柱化事業	工事内容の協議(通信・電気事業等)	あり	H28～
3	景観計画策定・運用	届出226件(重点地区内79件)の審査	あり	H23～
4	案内・説明看板等設置事業	28基、散策地図2種(高梁・吹屋地区)	あり	H22～29
5	景観影響建造物除去事業	倉庫の除却(吹屋地区)	あり	H22～27

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【景観計画】

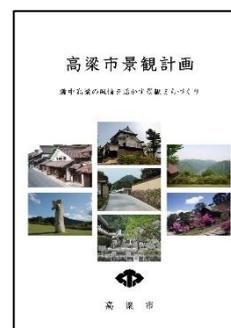
歴史的な町並みと自然が一体となった良好な景観を守るため、従前の岡山県景観計画を基盤として、重点地区の範囲拡大や新設、意匠の制限、色彩の規制などきめ細やかな景観形成基準を設定した高梁市景観計画を平成26年度に策定した。また、歴史的な町並みを縦断する都市計画道路の一部廃止や、住民からも指摘のあった景観を阻害する倉庫の除却をし、歴史的景観の保全を図った。

【道路美装化】

路線ごとに色合いや工法について地元住民や専門業者の意見を聴きながら、歴史的な景観に調和した美装化ができた。

【案内・説明看板等設置】

多種多様な看板を統一性のある景観に配慮したデザインに書き換え又は新設するとともに、高梁・吹屋両地区の町並み散策絵図(パンフレット)を作成し、地域の歴史的な魅力発信及び観光客の回遊性を高めることができた。



高梁市景観計画表紙



案内・説明看板の設置

④ 自己評価

大学教授、建築士、まちづくり団体などで組織する高梁市景観審議会(委員5名)において、建築物及び工作物の新築などに伴う届出等について形態・意匠等の専門的・技術的な角度から審査を行うため、町並みの景観が保たれている。また、看板の設置等についても景観に調和する取り組みができた。

⑤ 今後の対応

高梁市景観計画の「高梁城下町地区」と「吹屋周辺地区」は、「本市を代表する良好な景観や眺望を有し、その保全の必要性や緊急性が高い地区」として、これまで景観形成の取り組みがなされている。今後も継続的に市民・事業者・行政との協働による景観形成を図っていく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
効果	i 観光客数の増加		

① 効果の概要

重点地区における主要な文化財への来訪者数が10年で1.8倍に増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高梁市新総合計画	あり	H22～R01
2	高梁市まち・ひと・しごと総合戦略	あり	H27～R01
3	高梁市観光戦略アクションプラン	あり	H25～H29

③ 効果発現の経緯と成果

- ・高梁地区では重要文化財「備中松山城」・史跡「備中松山城跡」、名勝「頼久寺庭園」、吹屋地区では重要文化財「旧片山家住宅」があり、いずれの文化財も公開している。これら文化財の魅力を活かしたイベントを地域団体が主体となって実施しており、観光客誘致にも取り組んでいる。
- ・備中松山城、頼久寺庭園、旧片山家住宅への来訪者数は、平成22年度には約6万7千人であったが、令和元年度には約12万5千人となり1.8倍となった。ピークの平成28年度は全国的な城ブームに乗り、メディアに取り上げられる機会も増え、備中松山城の全国的な周知に繋がった。
- ・計画期間中には、史跡備中松山城跡の整備、武家屋敷通り・吹屋の町並み道路の美装化、城下町・鉾山町の俯瞰図による散策絵図の作成などの事業を行っており、これらによりそれぞれの知名度が向上した結果と考えられる。

主要文化財 来訪者数の推移



④ 自己評価

備中松山城では、近世城郭(天守など)の維持・管理をするとともに、城内の登城道の整備、中世城郭(天神の丸・大池など)の整備を実施することで、近世城郭と中世城郭が融合した城郭であることが認知され、来城者数が増加し、城下町や吹屋地域へも訪れ、市全域の観光客数の増加につながった。また、観光客の中には外国人も見かけるようになった。

※令和2年度の来訪者数は、令和2年4月から令和3年1月末までの集計データに基づく。

⑤ 今後の対応

重要文化財の備中松山城を適切に維持管理するとともに、整備事業を継続的に実施し、現存天守のある山城の魅力を一層高め、文化財としての保存・活用を推進する。
また高梁地区や吹屋地区の核となる文化財である頼久寺庭園と旧片山家住宅についても、引き続き所有者と連携を取りながら公開に努めていくとともに、国外に向けた情報発信についても取り組んでいく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
効果	ii 良好な景観とIターン、交流人口の増加による活性化		
① 効果の概要 吹屋地区のIターン者の増加、イベント交流人口の増加による地域活性化			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	高梁市新総合計画	あり	H22～R01
2	高梁市まち・ひと・しごと総合戦略	あり	H27～R01
3	高梁市観光戦略アクションプラン	あり	H25～H29
<p>歴史的な町並みの適切な保全・整備に努め、訪れる人や住む人にとって潤いと安らぎを感じられるまちづくりを推進する。貴重な文化遺産や伝統芸能を後世へ伝え遺していくために、保存会等への支援に取り組む。文化財の適切な保存・管理に努め、調査・研修を継続的にを行い、活用を図り、市民に文化や芸術に関心を持ってもらい、歴史と文化あふれるまちとして観光の魅力発信に取り組む。</p>			
③ 効果発現の経緯と成果			
<p>高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区では、昭和52年から「吹屋町並保存会」を中心に取り組んできた町家の保存修理・修景整備事業により、江戸時代後期から明治時代初期にかけて形成された町並みが極めて健在な形で保存されてきた。平成23年に受賞した「都市景観大賞」は先祖代々が後世に遺した賜物といえる。</p> <p>一方で、過疎高齢化の影響で空き家が増えつつあり、町並みの存続に危機感を持った住民たちは、「町並み」やかつて吹屋に財をもたらした「ベンガラ」をキーワードにしたイベントに取り組んでいる。また、約20年空き家となっていた明治時代の町家を整備した1棟貸しの宿泊施設を住民たちで管理・運営し、町並みに対する意識も変化してきている。</p> <p>近年では、吹屋の町並みに魅せられた20～60代の移住者が10年間で5家族9人増えた。空き家を改装して定住した彼らは、地域コミュニティ活動にも参加し、新しい視点で町並み保存活動に取り組みながら、自らも新店舗を経営し、交流人口増加に一役買うことを期待されている。</p>			
④ 自己評価		 <p>吹屋ベンガラ灯りの様子</p>	
		 <p>アートイベント「吹屋ベンガラアート展」の様子</p>	
<p>先祖から守り受け継がれた町並みの眺望景観は、山間にある赤い家並みのコントラストがとても美しく、住民たちの誇りであるが、それを維持することはもはや住民だけでは困難ともなっている。その中で、移住者は地域に温かく受け入れられ、住民とともにイベントや町並み保存活動に取り組み、今後の存続にも期待が繋がっている。</p>			
⑤ 今後の対応			
<p>今後は、移住者と一体となったコミュニティによりまちづくりを構築していく必要があるため、引き続き伝建事業などの助成を行い、住民とともに、吹屋の町並み、景観保全に努めていく。また、移住者や新規事業者へ対する可能な支援にも取り組んでいく。</p>			

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
取り組み	A 旧吹屋小学校校舎保存修理工事	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

旧吹屋小学校は、吉岡銅山とベンガラ生産が隆盛を極めた、明治31年に三菱商会から本部敷地の寄付を受け、明治33年に東校舎・西校舎、明治42年に本館が完成した。本館2階の講堂の二重折上棹縁天井や、各校舎の天井裏に造作されたトラス構造が大きな特徴で、当時岡山県の技術者であった江川三郎八の設計と推測される。

明治33年の開校以来、現役最古の木造校舎として使用されてきたが、平成24年3月末をもって閉校した。平成15年3月に県の重要文化財の指定を受けている。歴史的風致の拠点施設となるべく施設として建築年代などの建物調査を実施し、保存修理の方針を定め、実施設計を行った後、平成27年度から保存修理に着手し、機会をみながら修理工事現場の公開を行っている。

【工事概要】校舎の全解体修理

棟	構造・階数	床面積	
本館	木造2階建	766.75㎡	
東校舎	木造平屋建	251.83㎡	
西校舎	木造平屋建	247.18㎡	計1,265.76㎡



本館 瓦葺き状況

特別公開（修理前）				修理工事現場公開				
H24	第1回	3,060人	H25	第1回	2,331人	H27	第1回	108人
	第2回	2,922人		第2回	1,029人		第2回	131人
	第3回	2,401人		第3回	1,366人	H28	第3回	180人
		第4回		1,300人	第4回		115人	
						R1	第5回	193人
						R2	第6回	668人

←特別公開・修理工事現場公開の見学者の推移

② 自己評価

平成27年度から31年度までの5年間の計画で保存修理工事を行っていたが、耐震関連の構造補強見直しや既存木材の繕い加工等に手間取り、また平成30年豪雨災害の影響による職人不足により、やむなく2年間の工期延長となった。今後も工事の進行管理をしっかり行い、確実に2年間で完了させるとともに、延長期間内にも修理工事現場の公開などを行い、歴史的な建造物を身近に感じる機会の創出を図る。

外部有識者名	藤田 盟児 氏（奈良女子大学 教授）
外部評価実施日	令和3年1月

③ 有識者コメント

旧吹屋小学校は、鉾山町ゆえの高い技術と理系学問への志に支えられ、文化財的価値が高い建造物として建てられた。その適切な保存と活用は、吹屋の歴史を未来に伝えるために必要なことである。文化財的価値を失わない修理には、工事中の調査が重要であり、調査結果に基づいて設計変更が必須である。また、その適否は、専門家と学識経験者を交えた委員会に諮問することで担保される。高梁市教育委員会は、こうした方法を適切に実施しており、それゆえ文化財的価値を可能な限り残す修理および活用のための改造が行われている。また、工事現場の見学会を行い、その文化財的価値をしっかりと社会へ還元することを実行している点も高く評価される。

④ 今後の対応

引き続き、文化財的価値を重要視して専門家や学識経験者の意見を聴き、確実に完成させる。また、完成後は後世に伝える明治の学校建築として、また、吹屋地域の観光拠点施設として活用を図る。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
取り組み	B 高梁市景観重要建造物等保存事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>本市には、地域の景観を特徴づけている建造物や樹木がある。その中でも地域の歴史を物語る景観資源や地域のシンボルとして親しまれている景観資源は、魅力的な景観づくりの重要な要素になる。これらの建造物や樹木のうち、特に重要なもので、積極的に保全・活用が必要なものについて、景観重要建造物、景観重要樹木として指定している。</p> <p>高梁市景観審議会の答申に基づき、平成29年8月に薬師院の土塀および石垣を景観重要建造物に指定した。これにより、景観重要建造物の所有者・管理者には、良好な景観が損なわれないよう適正に管理する義務が発生するが、高梁市景観重要建造物等保存事業補助金が活用できるようになり、地域の良好な景観が守られることが期待される。</p> <p>【薬師院の土塀及び石垣】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(改修前)</p> </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="text-align: center;">  <p>(改修後)</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>高梁市景観計画策定後これまでに226件の届出があり、うち景観形成重点地区については79件の届出があった。いずれも城下町に残る歴史的な町並み保存の取り組み等に対して理解が得られ、良好な景観を維持することができている。</p> <p>薬師院の土塀および石垣を景観重要建造物に指定したことにより、土塀の漆喰剥離および石垣のはらみ出し等が見られた箇所を管理者が前述の補助金を活用して補修を行った。これにより、地域の良好な景観が守られた。</p> <p>現在は、上記の1件のみではあるが、今後、このような事例が増えれば、高梁市景観計画の基本目標である「備中高梁の風情を活かす景観まちづくり」に大いに寄与できると考える。</p>			
外部有識者名	小林 正美 氏（明治大学 教授）		
外部評価実施日	令和2年12月		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>備中松山城下に広がる歴史的な町並みと合わせて、城郭のような石垣の上に建ち並ぶ寺院群は、高梁地域の特徴的な景観である。</p> <p>それらの眺望景観の保全の取り組みとして、薬師院の土塀及び石垣を景観重要建造物に指定し維持補修が図られたことは、高梁市歴史的景観の価値を高めることができたことと評価できる。</p> <p>所有者だけでは困難と思われる建造物の維持・補修に対しては、行政の助成と合わせて住民意識の醸成を図り、今後も備中松山城下の歴史的な町並みとその特徴的な景観の保全を継続的に取り組まれ、高梁市の歴史的風致の価値をさらに高めていくことを期待する。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>今後も地域の魅力的な景観資源について、積極的に景観重要建造物・樹木として指定し、行政と所有者が一体となって地域の良好な景観を守っていく。</p>			

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
歴史的風致	1 城下町高梁に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的町並みの保存に関する方針 II 文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針 III 伝統文化の保存・継承に関する方針 IV 周辺景観に関する方針		

① 歴史的風致の概要

城下町の町割りの基礎は江戸時代の藩主水谷氏時代までに完成し、この頃をはじめた盆踊りが松山踊りの「地踊り」で、後に「仕組踊り」、「やとさ踊り」が加わり3つの踊りから構成されている。以前は商家の辻などで踊られていたが、戦後は駅前通りで盛大に踊られていて、時を経ても町の人々の心に風情として刻まれている。また、秋季大祭の神社神輿は、江戸時代につくられた町並みや城郭を思わせる石垣を持つ寺院群を背景にして巡行され、その姿に歴史と伝統を感じることができる。恵比寿社など小さい神社も多く、城下の端々に伝統的な人々の暮らしが垣間見え、歴史的な風情を醸し出している。

② 維持向上の経緯と成果

松山踊りは、長い歴史と伝統に支えられ、先人達は様々な願いや感謝の気持ちを込めて伝承してきた。しかし江戸から令和という時代の趨勢とともに、また近年の社会情勢や生活環境の急激な変化の中で、踊りの種類や芸態、踊り場等に変容がみられるようになってきた。そこで、平成25・26年度の2か年にわたり「高梁市松山踊り保存調査委員会」を設置し、歴史的推移と踊りの衣装・歌詞・芸態等について調査を行った。その結果、3つの異なった踊りが伝統的な芸能として1か所で継承されており、価値が高いと評価され、平成29年には市指定重要無形民俗文化財、さらに平成30年には県指定重要無形民俗文化財となった。

また、現在でも町割りや歴史的建造物が色濃く残る城下町を散策できるパンフレット「城下町散策絵図」及び城下の史跡や名所、建造物の構造を説明した看板を作成した。これにより、ただ単に見て回るだけの観光ではなく、歴史的な背景・雰囲気を感じながら城下を散策することもできるようになった。平成26年には、高梁市景観計画を策定したが、計画では重点地区の景観まちづくりの方針を定め、市を代表する優れた景観や眺望を有し、その保全の必要性や緊急性が高い地区として「高梁城下町地区」を重点地区とした。また、武家町・商家町・寺院群として城下町の面影を色濃く残す通りを景観形成道路と定め、積極的な景観誘導を図っている。



城下町散策絵図



周遊案内看板



松山踊りの様子

③ 自己評価

松山踊りについては、伝統的な芸能として評価され岡山県の重要無形民俗文化財として指定された。また、祭礼についても継承されている。

平成10年度から取り組んできた歴史的な町並みの保存事業は、景観計画の策定により強固な保存体制が整った。ただ、高齢化による担い手不足、空き家・空き地の増加は否めなく課題である。

④ 今後の対応

これまでの施策を継続し城下町の歴史的風致の維持向上を図っていくが、人口減少による空き家、空き地の増加や松山踊り、祭礼の担い手不足が生じてきている。このため、今後は、移住・定住施策、観光振興とも合わせた歴史的風致の維持向上を図っていく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
歴史的風致	2 銅山とベンガラによる繁栄に見る吹屋の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的町並みの保存に関する方針 II 文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針 III 伝統文化の保存・継承に関する方針 IV 周辺景観に関する方針		

① 歴史的風致の概要

吹屋地区は、古くから銅山の町として繁栄し、江戸時代中期からベンガラを生産し、昭和40年頃まで有数のベンガラ産地として繁栄した。吹屋往来では鉄や銅、木炭・日用雑貨などが運ばれ、この街道に沿って、商工業者が軒を連ね、特に重要伝統的建造物群保存地区は主に「町方」と呼ばれ、商業的な町家集落であった。吹屋が最も栄えた江戸時代末期から明治時代の建物がその姿を残している。秋祭りでは神輿と渡り拍子の一行が町並みを賑やかに練り歩きかつての繁栄をしのばせる。また、鉱夫が住んでいた長屋は「山方」と呼ばれ、現在は石垣の跡程度しか残っていないが、腰折地蔵やお大師道などの民間信仰が暮らす人々の生活とともに受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

重要伝統的建造物群保存地区では、住民で組織する吹屋町並保存会が毎年修理・修景する順番を決め、市が助成をし、これまでに149件の建造物・工作物を整備してきた。そのほか市は、道路の美装化、景観阻害建物の除却、説明看板の設置、散策絵図の作成等の事業に取り組んできた。また、明治期の木造校舎「旧吹屋小学校校舎」を文化財の保存修理事業として、令和4年3月完成を目指している。しかしながら、空き家が増加してきており、個々の家屋の保存が危惧されるようになってきた。そこで、住民と行政が協力し寄付を受けた空き古民家を平成27年から29年にかけて改修して、宿泊施設としてオープンさせ、地元住民で組織する株式会社が運営に当たっている。

整備が進む町並みでは、春には町家や町並みを花で彩る「花めぐり」や、秋には夜の町並みを灯籠で照らし、ゆったりと踊りが練り歩く「吹屋ベンガラ灯り」や、アートイベントの「ベンガラアート展」が開催されるようになった。

一方で、吹屋の魅力に惹かれて移住してくる人もいて、地元出資で運営していた食べ物屋は若者が経営を引き継ぎ、また新たにカレー店や美容院もオープンしている。

山間部に現れる石州瓦とベンガラ格子に彩られた赤い町並みの吹屋地区は人口減少が課題ではあるが、最近では定住者も現れてきており、活気も生じてきている。

そして、この国内屈指のベンガラと銅の生産により繁栄した鉱山町・吹屋のストーリーが、令和2年6月に「『ジャパレッド発祥の地』— 弁柄と銅の町・備中吹屋—」として日本遺産に認定された。今も残る赤い町並みやベンガラ工場跡や銅山跡などは、独特の風情を醸し出すとともに、往時の繁栄をしのばせており、訪れる多くの方を魅了している。



H23



カラー舗装により美装化

H24

③ 自己評価

これまで伝建地区として町並み整備に取り組んできたが、一方で空き家が増加している。対策の一環として、まず1棟が宿泊施設としてオープンし、町並み保存に対する意識の向上が図られ、雇用も生まれている。また、旧吹屋小学校校舎保存修理工事の完成時に観光客を受け入れる態勢を整えなければならない。今後も住民と行政が一体となった取り組みが必要である。



工事が進行する旧吹屋小学校校舎

④ 今後の対応

今後は伝建地区の町並みや旧吹屋小学校及び周辺の吉岡銅山跡、広兼邸、笹畝坑道などを一体としたコンセプトプランを作成する。プランには、作成時から住民の意見を取り入れ、住環境の整備や観光客受け入れの体制づくりを考えていき、吹屋全体を一体的に整備し、経済的な効果も生まれるように進めていく。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
歴史的風致	3 備中神楽に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針 Ⅲ伝統文化の保存・継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

備中神楽は高梁市を中心に岡山県西部一帯で盛んに行われ、市内全域の神社や荒神社で奉納される。かつて荒神社などで神事舞や王子神楽が行なわれていたが、江戸時代の国学者で神官の西林國橋が「古事記」「日本書紀」などの神話に基づいて、演劇形態のよく整った神楽である神代神楽を創作した。それは当時娯楽の少なかった農村部などで人々に広く受け入れられ、次第に良好な形で荒神神楽へ入り込み地域の代表的な民俗芸能として受け継がれ、重要無形民俗文化財にも指定された。特に秋祭り前夜の宵祭りなどでは、市内の約半数近い神社で、家内安全と五穀豊穡を祈願し、備中神楽が奉納されている。

② 維持向上の経緯と成果

古くから郷土芸能として受け継がれてきた神楽は、今では荒神神楽と神代神楽を総じて備中神楽と呼ばれている。1年に1度特定の日に行われる例祭や、7年もしくは13年に1度行われる式年祭で演じられるほか、9月から11月にかけて神社の秋祭りで奉納されるなど市内全域で行われている。

神楽は、地域にとっては馴染みある民俗芸能であるが、各地のイベントでも演目の一部を披露するなど、観光客も含め多くの人にも楽しんでもらえるよう活動している。毎年4月には備中神楽の創始者である西林國橋を顕彰するために開催している「國橋まつり大神楽大会」は、県内屈指の神楽太夫が熱演し、観客を魅了している。年1回開催している備中神楽研修会では、市外の神楽活動団体とともに共演し、相互の技術の向上を目指している。

また、備中神楽発祥の地といわれている成羽町では、地域団体が備中神楽のオブジェを制作し、商店街を「神楽ロード」と銘打ってまちづくりに取り組んでいる。

現在、過疎高齢化が著しい地域の中において、3つの保存会と8つの育成会が保存伝承活動、後継者育成活動に取り組んでおり、この団体の基盤強化を図るために活動補助金を交付することにより活動を支援し、その結果、団体数は現状を維持している。

【備中神楽保存団体の推移】

平成22年度

団体種別	団体数	会員数
備中神楽保存会 (大人)	3	118
備中神楽育成会 (子供)	6	71



令和2年度

団体種別	団体数	会員数
備中神楽保存会 (大人)	3	107
備中神楽育成会 (子供)	8	81

③ 自己評価

子供たちが「備中神楽」に取り組むことで、郷土への愛着心が養われるとともに次代の神楽太夫、指導者として期待が膨らむ。あわせて郷土芸能を伝える取り組みにより高梁市の歴史的風致の維持向上につながる。



備中神楽研修会の様子(R1)

④ 今後の対応

団体の活動支援はもとより、発表の場、研修機会の提供を行うことにより真髓の舞など技術の継承と次代を担う神楽太夫の育成を目指す。また、いつの時代も市民から愛され、誇れる郷土芸能「備中神楽」であるための新たな取り組みも今後、必要と考えている。

地域を代表する民俗芸能「備中神楽」を後世に伝えることが今後も重要であり、引き続き支援を行う必要がある。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
歴史的風致	4 渡り拍子に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ文化財等歴史的建造物の保存・修復に関する方針 Ⅲ伝統文化の保存・継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

渡り拍子は、岡山県の西部農村地域で昔から広く行われ、高梁市では高梁川より西部地域の備中町、川上町、成羽町、宇治町、松原町で広く行われている。農作と無病息災を祈り、氏神に感謝を込めた秋祭りの神輿の供奉楽として、600年余の伝統を持つといわれる民俗芸能である。

地域により呼称や飾り、衣装などに相違がある。頭に被る笠は、花笠と尾長鶏の鳥毛で作った赤熊があり、それぞれ太鼓の打ち方も異なる。前者は華やかで、後者は勇壮であるともいわれている。複数の「カラ」が一団となって、お社や家の門庭などで豊作と無病息災を祈り、鉦の音とともに鮮やかな着物・袴の一団が踊り跳ぶ様に風情があり、人々の暮らしに深く結びついている。

② 維持向上の経緯と成果

【渡り拍子保存団体の推移】

渡り拍子は、市西部地域において秋祭りの供奉楽として伝承された民俗芸能である。地域によって衣装などに相違があるが、それぞれに伝承された芸能を今に受け継いでいる。

元々は少年のみがトビコとなっていたが、少子高齢化が進む地域では、少女や青年、今では大人もトビコになり、地域を離れた世代も秋祭りには帰省して舞っている。地域の伝統的な民俗芸能として、秋祭り以外でもイベントに参加して、観光客にも地域の特徴ある衣装や飾りで舞いを披露している。

平成28年2月、市内の渡り拍子において、代表的なものである備中町平川の鋤崎八幡神社の渡り拍子を含む「鋤崎八幡神社の秋祭り」が岡山県の重要無形民俗文化財に指定された。この指定により、さらなる保存と継承に対する住民意識が高まったと考えられる。

現在、保存会を組織し伝承活動に取り組んでいるが、近年の過疎、少子化による後継者不足で伝承活動が困難な状況であるため団体の基盤強化を図る目的で活動補助金を交付し、継続的な活動を支援している。こうした取り組みにより、保存会数、会員数の減少も緩やかな状況にある。

平成22年度

団体種別	団体数	会員数
渡り拍子保存団体	26	429



令和2年度

団体種別	団体数	会員数
渡り拍子保存団体	22	436

③ 自己評価

過疎化、少子化の中において、団体数・会員数の激減もなく保存伝承活動が継続して行なわれていることは、推進事業の効果といえる。しかしながら地域によっては厳しい実態もあり、新たな仕組みづくりが急務である。



鋤崎八幡神社の渡り拍子

④ 今後の対応

ますます進む過疎化、少子化の中で民俗芸能の灯を絶やすことのないように地域ぐるみで保存伝承、後継者育成に取り組める環境づくりのため、継続した支援が必要である。

今後も保存伝承、後継者育成を目的に継続した支援を行い、後世に受け継がれていく郷土芸能を目指す。

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
<p>① 庁内組織の体制・変化</p> <p>計画推進にあたっては、庁内組織である「高梁市の歴史と伝統等を生かした文化のまちづくり連絡会議」及び「同担当者会議」の事務局である観光課 日本遺産・歴まち推進室が事業調整を行った。また、各事業の実施にあたっては、必要に応じ随時担当者との打ち合わせを行った。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="213 546 860 1030" style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 40%;"> <p>高梁市庁内組織</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>高梁市の歴史と伝統等を生かした文化のまちづくり連絡会議 【事務局：観光課 日本遺産・歴まち推進室】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↑ 意見</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(検討・調整)担当者会議</p> <p>農林課、建設課、都市整備課、市民課 各地域局、教育委員会社会教育課 【事務局：観光課 日本遺産・歴まち推進室】</p> </div> </div> <div data-bbox="954 629 1353 927" style="width: 40%; text-align: center;">  <p>庁内会議の様子</p> </div> </div>			
<p>② 庁内の意見・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史まちづくり計画の策定により、城下町地区、吹屋地区における各種施策に対して、まちづくりの視点で位置付けることができた。 ・歴史的風致の環境を維持向上するため、市長部局、教育委員会部局等、関係課が連携して取り組みを推進することができた。 ・庁内連絡会議で事業調整を図ってきたが、事業のすべては円滑に推進することができなかった。今後、ますます連携を強めて取り組む必要がある。 			

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年																												
<p>① 住民意見</p> <p>（まちづくりに関する市民アンケート調査結果から） アンケート実施時期：令和元年10月</p> <p>まちづくり施策の満足度</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="271 481 606 918"> <p>文化財の保存</p> <table border="1"> <caption>文化財の保存の満足度</caption> <tr><th>満足度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>普通</td><td>52.9</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>23.4</td></tr> <tr><td>満足</td><td>13.1</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>6.2</td></tr> <tr><td>不満</td><td>2.3</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>2.1</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="957 481 1292 918"> <p>自然景観や自然景観保全</p> <table border="1"> <caption>自然景観や自然景観保全の満足度</caption> <tr><th>満足度</th><th>割合</th></tr> <tr><td>普通</td><td>51.5</td></tr> <tr><td>やや満足</td><td>24.4</td></tr> <tr><td>満足</td><td>13.6</td></tr> <tr><td>やや不満</td><td>7.1</td></tr> <tr><td>不満</td><td>1.4</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>2.1</td></tr> </table> </div> </div>				満足度	割合	普通	52.9	やや満足	23.4	満足	13.1	やや不満	6.2	不満	2.3	無回答	2.1	満足度	割合	普通	51.5	やや満足	24.4	満足	13.6	やや不満	7.1	不満	1.4	無回答	2.1
満足度	割合																														
普通	52.9																														
やや満足	23.4																														
満足	13.1																														
やや不満	6.2																														
不満	2.3																														
無回答	2.1																														
満足度	割合																														
普通	51.5																														
やや満足	24.4																														
満足	13.6																														
やや不満	7.1																														
不満	1.4																														
無回答	2.1																														
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>令和2年3月27日に開催した法定協議会では、最終評価(案)を提出し、事業の総括について議論していただいた。その結果、以下のように意見をいただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備中松山城の観光客は増えても、城下町までは増えたように感じない。しかし、町なかを周遊する方策も展開していることも評価した方がよい。 ・ 歴まち計画の事業進捗による、効果や生業、生活の質、人々の動きなどに変化があったのか、より具体的な波及効果を挙げて、次期計画へ繋げていかなければならない。 ・ 移住者に、移住を決めた理由や生業を始めた理由などを聞いて、新しい効果があれば挙げた方がよい。 ・ 全体的にハード整備に寄り過ぎている感じに見えるが、ハード整備後の活用に繋がるよう、ソフト面の対策も工夫したらよい。 																															

市町村名	高梁市	評価対象年度	H22～R2年
<p>① 全体の課題</p> <p>1. 歴史的建造物等の保存・活用に関すること 高梁市の歴史的な町並みを構成する建造物は、人口減少や所有者の高齢化により、維持管理が困難な状況となっており、今後、さらに空き家や空き地の増加が予想され、建造物の維持が喫緊の課題となっている。また、建造物の老朽化・耐震対策に要する所有者の負担も増している。</p> <p>2. 歴史的景観等の保全・活用に関すること 高梁市の歴史的な町並みにおいて、電柱や電線が歴史的景観を阻害しており、防災の観点からも無電柱化を図っていく必要がある。また人口減少や建造物所有者の高齢化などにより、空き家や空き地が増加し、本市の歴史的な景観を形成している町並みの連続性が失われつつある。</p> <p>3. 地域の民俗芸能や歴史的な祭礼行事等の伝承に関すること 地域住民の人口減少や少子高齢化の進展により、民俗芸能や祭礼行事の担い手不足は年々深刻さを増している。これから先、地域コミュニティの希薄化が進み、歴史的風致を支えてきた人々の活動の継続も困難になりつつある。</p> <p>4. 観光客の増加や広域的な観光に関すること 高梁の城下町地区、吹屋地区ともに、歴史的な建造物が観光資源となっているが、こうした歴史的な資産への観光客の誘導、周遊性が確立されておらず、観光振興につながっていない。また、外国人観光客も増加しているが、受け入れ態勢が整っていない。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>第2期計画を策定し、行政・市民・事業者が一体となって、引き続き歴史的風致の維持向上に取り組む。</p> <p>1. 歴史的建造物等の保存・活用に関すること 歴史的な町並みを構成する建造物の修景整備費助成制度を活用した保存に引き続き取り組む。また、空き家対策として、活用に向けた情報発信、古民家再生にも取り組んでいく。</p> <p>2. 歴史的景観等の保全・活用に関すること 高梁の城下町地区と高梁市吹屋伝統的建造物群保存地区の良好な眺望景観を保全するため、継続的な町家の修景整備助成とともに、高梁の城下町地区については、無電柱化事業にも取り組んでいく。</p> <p>3. 地域の伝統芸能や歴史的な祭礼行事等の伝承に関すること 継続的な保存伝承、後継者育成を目的にした研修会等の支援や、活動団体に対する財政的な支援も行うとともに、民俗芸能の魅力発信にも取り組んでいく。</p> <p>4. 観光客の増加や広域的な観光に関すること 歴史的資源の魅力について地域住民が理解を深める講座、講演会や、国内外へ向けた多言語の情報発信ツールの作成にも取り組んでいく。</p>			